

# すがおで元気プラン

SDGs Plan ~末永く 誰もが 元気な地域を目指して~



山本地区 小地域福祉活動計画（第1期）



令和6~10(2024~2028)年



山本地区社会福祉協議会

私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



## ごあいさつ

すがお小学校区では、住民みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくりを目指して、地域住民や公私の社会福祉関係者が協力して地域福祉活動を進めてきました。特に、平成20年に旧山本小学校と旧道原小学校がすがお小学校に統合された後も、山本地区社会福祉協議会と道原地域社会福祉協議会が連携して、「自分たちの地域の福祉課題は、自分たちが解決していく」という思いを持って、見守り・話し合い・助け合いの活動を中心に小地域福祉活動を進めてきました。

現在は、全国的に本格的な少子高齢社会となり、世帯構造についても大きな変換期を迎えています。北九州市においても急速な少子高齢化や、障害を持つ人の増加、孤立死やヤングケアラーの問題など地域の生活課題は一層の多様化を見せており、地域福祉の重要性の高まりが必要とされています。また、2020年からは新型コロナウイルスの感染予防と地域活動との共存という難しい局面にも立たされています。その中で行政と民間団体との役割分担と協働の指針である「北九州市の地域福祉2021-2025」（北九州市地域福祉計画）が行政により策定され、また行政計画と協働しながら北九州市社会福祉協議会が中心となって地域社会の福祉課題を解決するため「地域共生！きたきゅうプラン2021～2025」（北九州市地域福祉活動第六次計画）が策定されたところです。

山本地区においても、今後地域福祉活動をより進めていくために、地域福祉を担う各種団体がもう一度地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けて話し合い、協働を生み出していく協議の場が求められています。そこで、北九州市の地域福祉計画及び北九州市社協の地域福祉活動計画と整合性を持ちながら、住民主導による地域福祉活動を進めるため、新しい小地域福祉活動計画を策定しました。

この計画の策定にあたりご尽力いただきました町内会長、民生委員ほか関係の皆様並びにご意見をお寄せいただきました地域の皆様に、感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。



山本地区社会福祉協議会  
会長 川嶋 豊一

## もくじ

### ごあいさつ

#### 第1章 計画策定にあたって …… 1 p

- 1 計画の性格
- 2 計画の期間
- 3 計画の愛称

#### 第2章 山本地区の現状と課題 …… 2 p

- 1 地域の特性や福祉課題
- 2 アンケートの集計結果
- 3 社会資源

#### 第3章 計画体系 …… 3 p

- 1 基本理念
- 2 基本目標
- 3 実施項目（体系図）
- 4 重点実施項目

#### 第4章 計画の推進 …… 6 p

- 1 計画の承認と周知
- 2 計画を推進するための体制
- 3 第2期計画の策定
- 4 令和5年度山本地区社会福祉協議会理事名簿

#### 参考資料 …… 7 p

- 1 計画策定の手順
- 2 「お困りごと」アンケート

## 第1章 計画策定にあたって

### 1 計画の性格

#### (1) 地域住民が発信

この計画は、自分たちが住む地域は自分たちで守るという意識を持ち、山本地区の福祉課題・目標を住民や関係者で共有し、課題解決や目標達成に向けて中長期的に取り組むための計画です。

#### (2) 日常生活を支援

この計画は、地域に住む人たちの日常の「生活」を支えることを活動の原点とする計画です。

#### (3) 公共的組織と協働

この計画は、北九州市、北九州市社会福祉協議会及び小倉南区社会福祉協議会の計画と連携しながら地域福祉活動を進めていく計画です。

#### (4) 活動の指針

この計画は、地域福祉の向上と住民の幸せを目指すための活動指針であり、山本地区社協は、この計画に基づく活動に積極的に取り組み、住みよい地域づくりに貢献していきます。

### 2 計画の期間(5年間)

第1期計画の期間は、令和6～10（2024～2028）年度までの5年間とします。計画の期間中、社会情勢などの地域を取り巻く状況に大きな変化があれば、随時見直しを行います。

### 3 計画の愛称「すがおで元気プラン」= SDGs PLAN(エスディーゼーグズ プラン)

この計画の愛称を『すがおで元気プラン (SDGs PLAN)』とします。

「山本地区 (Sすがお小学校区) Dで、G元気に過ごせるように」、そして、「S末永く、D誰もが、G元気な地域となるように」という願いを込めています。

SDGs (エスディーゼーグズ) とは、国連が定めた17の目標で、すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くために、私たちが直面する世界的な諸課題の解決を目指すものです。世界の一部でもあるこの山本地区は、日本の中でも田舎の小さな地域ではありますが、できることからコツコツと、という精神で、「世界一、誰もが元気で幸せに暮らせる地域」を目指し、山本地区のSDGs達成に向けて活動を進めていきます。



## 第2章 山本地区の現状と課題

### 1 地域の特性や福祉課題

山本地区（すがお小学校区の一部）は、小倉南区の最南端に位置し、区域のほとんどを山林が占め、地域の中心に紫川が流れる豊かな自然に恵まれる地域です。地区内には、すがお小学校や町内の公民館はあるものの、病院は無く、交通などの社会資源が充実しているとは言えない状況です。高齢化も進んできており、高齢者のみの世帯や単身世帯が占める割合が高い地域です。

平成10年に山本地区社会福祉協議会が設立され、ふれあいネットワーク活動が展開されていますが、少子高齢化や世帯数の減少などの影響により、福祉協力員等の福祉活動者の平均年齢も高くなってきています。そのために校区内では次世代の福祉活動者の早急な育成が求められています。

### 2 「お困りごとアンケート」の集計結果(令和5年4月実施)

○総世帯数 397世帯(春吉、山本、加用、高津尾町内)

○アンケート回収率 約80%

① 日常生活において、『困りごと』がある。	17世帯/ 4.3%
② 『困りごと』がある時に相談相手がいない。誰に相談してよいか分からない。	9世帯/ 2.3%
③ ゴミ出し・廃品回収にとっても困っている。	8世帯/ 2.0%
④ 買い物(食料品、日用品)にとっても困っている。	19世帯/ 4.8%
⑤ 病院(通院・薬の受け取り)に行くのにとっても困っている。	19世帯/ 4.8%
⑥ 庭掃除や庭木の剪定にとっても困っている。	24世帯/ 6.0%
⑦ 洗濯、掃除、布団干しにとっても困っている。	6世帯/ 1.5%
⑧ 子育てにとっても困っている。	該当なし/ 0%
⑨ 災害時の避難場所や避難経路がまったく分からない。	19世帯/ 4.8%
⑩ 災害時に他人の支援がないと避難できない。	8世帯/ 2.0%
⑪ 自身の健康や家族の介護が、とても不安だ。	14世帯/ 3.5%
⑫ 新型コロナウイルスに感染しないか、とても不安だ。	13世帯/ 3.3%
⑬ もっと地域の人や子ども達とふれあえる行事を実施して欲しい。	22世帯/ 5.5%
⑭ 近所の人困っているときにお手伝いをしても良い。	38世帯/ 9.6%

### 3 社会資源

山本地区（すがお小学校区の一部）は、小倉南区の最南端に位置し、区域のほとんどを山林が占めています。社会資源のうち、公共的施設としては、すがお小学校、各町内の公民館、区域外ではあるが山本地区住民が利用できる両谷市民センターがあります。また、人的組織としては、地区内の自治会、民生委員、小学校 PTA、両谷地区青少年育成協議会などがあります。

### 第3章 計画体系

#### 1 基本理念「末永く 誰もが 元気に暮らせる地域を目指して」

山本地区では、子どもから高齢者まで、障害のあるなしに関わらず、誰もが住み慣れたところで安心して元気に生活できるまちにしたいと願っています。そこで「末永く誰もが元気に暮らせる地域を目指して」という言葉を計画の基本理念として、計画を推進していきます。

#### 2 基本目標

##### (1) 人と人とのふれあいを深めよう

地域交流の場所の設置やイベントを企画して、住民間のつながりを強めていきます。

##### (2) ふるさとを愛し、助け合いの心を育もう

子どもたちへの福祉教育や福祉活動の広報啓発を通じて、地域に福祉の風土を醸成します。

##### (3) 地域の暮らしを支え合おう

地域住民みんなが安心して暮らせるよう関係団体と支援の輪をつくり、住民の主体的参加による福祉活動をすすめます。


##### (4) 地域の「活動力」を高めよう


活動者の募集や育成、活動財源の安定的な確保に向けた活動を通じ、地域の活動力を強化します。


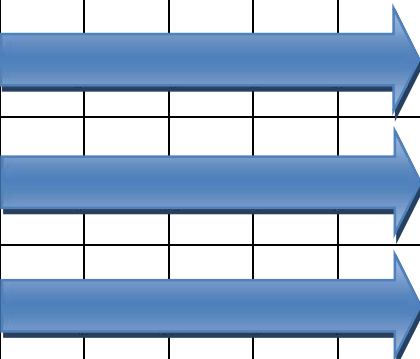
#### 3 実施項目(体系図) ◎…重点実施項目


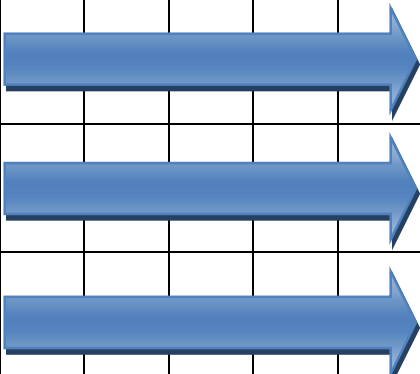


## 4 重点実施項目

重点実施項目 1		ふれあい見守り訪問活動の継続							
1 課題・背景（重点項目とした理由）									
<p>山本地区では高齢者が多く、中でも1人暮らしの高齢者世帯や高齢者夫婦のみの世帯など、社会との接点が少なく、ひきこもりや閉じこもりの生活になってしまう方も少なくありません。アンケートでも「相談相手がいない」「困りごとがある」という意見もあり、解決に向けた検討が必要です。</p>									
2 活動の方針・目標									
<p>訪問世帯のそれぞれの状況に応じて、福祉協力員を中心にふれあい見守り訪問活動を実施し、その訪問活動を通じて得た情報をはじめ、民生委員、町内会長等の地域の実情に詳しい方の情報や意見を聞きながら、訪問世帯と地域との接点を保ち、見守りを続けます。また、町内別ふれあい行事や高齢ふれあいサロンの活動を支援します。</p>									
3 段階的な取組の年次計画									
取組み内容	連携する機関	R6	R7	R8	R9	R10	5年後の達成目標		
福祉協力員等による ふれあい見守り訪問活動	自治会 民生委員	→					訪問活動の継続		
理事会・連絡調整会議での 状況確認・情報収集		→							
町内別ふれあい行事 高齢ふれあいサロンの支援		→						行事・活動の継続	

重点実施項目 2		ウェルクラブ活動の実施							
1 課題・背景（重点項目とした理由）									
<p>福祉協力員をはじめとする地域の福祉活動者の後継者育成は、将来の福祉活動の継続性を保つために必要不可欠です。将来の福祉活動の担い手として、子ども世代に福祉の視点を涵養するとともに、その親世代にも社協活動を知ってもらうことが必要です。</p>									
2 活動の方針・目標									
<p>敬老行事の案内状配布や行事当日の参加、地域の運動会やお祭りへの参加、ふれあいバスハイクなど、子ども達が取組みやすい活動に参加することから福祉の心を育てることを中心に、道原地域社協と連携しつつ、ウェルクラブ活動を実施し、活動の充実を図っていきます。</p>									
3 段階的な取組の年次計画									
取組内容	連携する機関	R6	R7	R8	R9	R10	5年後の達成目標		
敬老行事への積極的な参加	小学校・PTA 自治会 まち協 市民センター 区社協	→					参加者 すがお小学校児童 の90%以上		
地域行事への積極的な参加		→							

重点実施項目 3 関係団体との協力・連携							
1 課題・背景（重点項目とした理由）							
<p>山本地区は、山林を含む広い地域に居住区域が広がっており、支援世帯等をはじめとした日々の住民の生活状況を把握・確認するためには、福祉協力員以外の関係団体（民生委員、自治会、まち協など）と協力・連携し、複数の視点での情報共有を図る必要があります。</p>							
2 活動の方針・目標							
<p>関係団体の会議や活動・イベントに対して積極的に支援・協力し、相互の連携を強化し、必要な情報を共有します。連絡調整会議等を通じて、支援世帯等の状況を把握します。</p>							
3 段階的な取組の年次計画							
取組内容	連携する機関	R6	R7	R8	R9	R10	5年後の達成目標
関係団体の会議や活動への参加	自治会 まち協						関係団体との連携の強化
連絡調整会議での情報共有	小学校・PTA 青少協 市民センター						連絡調整会議の定期的な開催
日常生活の困りごと対策	区社協						困りごとがある世帯数の減少

重点実施項目 4 年末年始行事の充実							
1 課題・背景（重点項目とした理由）							
<p>年末に1年の労をねぎらうとともに、地域交流の一つとして、すがお小学校 PTA を中心に餅つき大会を実施してきました。永年続いている行事であるが、コロナ禍で、そのノウハウ等も少しずつ薄れる一方、地元で採れたもち米を使うなど、地域への愛着を醸成するためには重要な行事です。</p>							
2 活動の方針・目標							
<p>1年の節目である年末年始という時期に、感染症対策等の衛生面にも留意しつつ、時代に即した形で年末年始行事を実施し、必要があれば実施方法に工夫を加えていきます。</p>							
3 段階的な取り組みの年次計画							
取り組み内容	連携する機関	R6	R7	R8	R9	R10	5年後の達成目標
ふれあい餅つき大会の支援	自治会 小学校・PTA 市民センター 区社協						時代に即した形で の行事の実施
実施方法の検討と反省							
共同募金活動への協力							

## 第4章 計画の推進

### 1 計画の承認と周知

- ① 山本地区社会福祉協議会理事会等を通じた活動者等への計画の承認・周知
- ② 計画を実施する上で必要な関係機関・団体への周知・協力依頼
- ③ 地区住民へ周知し、計画を推進していくために計画の広報活動を行います。

### 2 計画を推進するための体制

#### (1) 計画の進行管理

計画を推進していくために山本地区社協の理事会等において、必要に応じて以下のような計画の進行管理を行います。

- ① 関係機関・団体との連携
- ② 計画内容の具体的な計画、実施
- ③ 計画全体の進捗管理

#### (2) 計画の評価

計画期間の最終年度には計画全体の総括評価（必要に応じて中間時点で見直し）を行います。

### 3 第2期計画(令和11～15年度)の策定

第1期計画の推進状況を踏まえて、第二次計画の策定期（令和8年度下半期から令和9年上半期頃）に合わせて第二次計画策定委員会を設置し、次期計画策定に向けた協議を進めます。

### 4 令和5年度 山本地区社会福祉協議会 理事名簿(令和5年4月1日時点)

	氏名	所属団体	役職	備考
1	川嶋 豊一	山本地区社会福祉協議会	会長	春吉
2	尾上 美絵	〃	副会長	高津尾
3	三井 勇策	〃 (加用町内会長)	書記	加用
4	田中 孝治	〃	会計	山本
5	小林 高德	中谷地区自治連合会 (春吉町内会長)	会長	
6	森本 誠	山本町内会長		
7	佐藤 正一	高津尾町内会長		
8	有野 俊文	民生委員(山本)		
9	南 貞美	〃 (春吉)		
10	迫田 和代	〃 (高津尾)		
11	森本 伸幸	〃 (加用)		
12	郡谷 里美	主任児童委員		山本
13	織田 守	山本公民館長 (山本地区社協 監事)		
14	塚本 徳博	春吉公民館長		
15	平城 昭	高津尾公民館長 (山本地区社協 監事)		
16	田原 常雄	加用公民館長		
17	島田 剛	すがお小学校 (山本地区社協 顧問)	校長	
18	船田 一実	山本地区社会福祉協議会	福祉協力員部会 副部長	



**【参考資料】** 第4回理事会・福祉連絡調整会議(R5.10.21 開催)の配布資料

**山本地区社協の「小地域福祉活動計画(第1期)」策定にあたって**

～ 計画策定の手順 ～

小地域福祉活動計画とは、地域の福祉課題や目標を住民や関係者で共有し、課題解決や目標達成に向けて中長期的に取り組むための計画です。山本地区社協の計画を策定するには、以下のような手順が必要と考えています。

**手順①** まず、地域の現状や課題を把握するために、**住民アンケート**や**ヒアリング**を行います。その際、高齢者や障がい者、ひとり親家庭などの支援を必要とする人(要支援者)の声を聞くようにします。ヒアリングについては、民生委員、福祉協力員をはじめ、町内会長など地域の実情に詳しい方の情報や意見を大切にします。

→「お困りごとアンケート」の実施 R5.4

→福祉連絡調整会議でのヒアリング 年6回(偶数月)

**手順②** 次に、地域の**将来ビジョン**や**理念**を明確にし、基本目標や実施項目を設定します。その際、地域の特色や多様性を尊重し、住民の参加や協働を促すようにします。特に、具体的な活動や行事については、基本目標に沿った内容となるよう努めます。

→R5.10 計画骨子の策定 R5.12 計画案の提案 R6.2 計画策定

→具体的活動や行事の確認・見直し(随時)

**手順③** さらに、計画の実施に必要な予算や人員、関係機関や団体との**連携方法**などを検討します。その際、市区の社会福祉協議会や地区内の民生委員・自治会・PTA・青少協などの**人的組織**及び、市民センター・公民館・学校などの**公共的施設**などの**社会資源**を有効に活用するようにします。

→人的組織、公共的施設との連携強化[会議や行事への出席等](随時)

**手順④** 最後に、計画書を作成し、地域住民や関係者に**広報**します。その際、計画の進行管理、点検、評価方法も検討し、計画の達成度や効果を定期的に確認し、次の計画に反映できるようにします。

→R6.3～4計画の広報・周知

→計画の進行管理(PDCA サイクル)

以上のような一般的な策定の流れをもとに、**山本地区の実情**に応じて柔軟に対応することが大切であると考えます。また、計画策定は一度きりではなく、継続的に見直しや改善を行うことが必要です。小地域福祉活動計画は、**地域福祉の向上と住民の幸せを目指すための重要なツール**であり、山本地区社協は、この計画策定に積極的に取り組み、**住みよい地域づくりに貢献**していきたいと考えています。

**【参考資料】** 令和5年4月実施(各町内の回覧板を活用して実施)

山本地区社会福祉協議会

令和5年4月吉日

**日常生活の『お困りごと』アンケート**

今後の活動計画の参考とするため、アンケートを実施いたします。  
ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

山本 春吉 高津尾 加用 町内 / 隣組名( )

※お手数ですが、回覧後、隣組長は町内社協役員又は町内会長に本紙を提出してください。

●各項目の内容にあてはまる場合は、をしてください。(1項目につき各世帯1つまで)

① 日常生活において、『困りごと』がある。

② 『困りごと』がある時に相談相手がない。誰に相談してよいか分からない。

③ ゴミ出し・廃品回収にととても困っている。

④ 買い物(食料品・日用品)にととても困っている。

⑤ 病院(通院・薬の受取り)に行くのにととても困っている。

⑥ 庭掃除や庭木の剪定にととても困っている。

**【参考資料】**

- ⑦ 洗濯、掃除、布団干しにととても困っている。
- ⑧ 子育てにととても困っている。
- ⑨ 災害時の避難場所や避難経路がまったく分からない。
- ⑩ 災害時に他人の支援がないと避難できない。
- ⑪ 自身の健康や家族の介護が、とても不安だ。
- ⑫ 新型コロナウイルスに感染しないか、とても不安だ。
- ⑬ もっと地域の人や子ども達とふれあえる行事を実施して欲しい。
- ⑭ 近所の人困っているときにお手伝いをしても良い。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## ★社会福祉協議会のイメージキャラクター★

### 『プチボザウルス』 (Petit vo saurus)



Petit (プチ：ちっちゃな)

Volunteer (ボランティア)

Saurus (サウルス≒恐竜)

## 山本地区社会福祉協議会

〒803-0279 北九州市小倉南区徳吉南 1-6-1 両谷市民センター内  
TEL・FAX 093-451-1138

## 小倉南区社会福祉協議会

〒802-8510 北九州市小倉南区若園 5丁目 1番2号  
TEL 093-951-5388 FAX 093-951-5391

## 北九州市社会福祉協議会

〒804-0067 北九州市戸畑区汐井町 1番 6号ウェルとばた内  
(代 表) TEL 093-882-4401 FAX 093-882-3579  
(地域福祉部) TEL 093-882-4425 FAX 093-873-1351  
<http://www.kitaq-shakyo.or.jp/>